

とっても頑固なゴミ屋さん!!
 **加山興業株式会社**

[本書に関するお問い合わせ先]

〒442-0008 愛知県豊川市南千両二丁目1番地

TEL : 0533-89-0375 FAX : 0533-84-3739



Think Proper
CSR報告書 2016



KAYAMA

TOP MESSAGE

なくてはならない存在に
愛される企業を目指します

会社設立55年の節目にあたり、まずもって当社を支えていただきましたお客様、地域の皆様、社員、社員のご家族の皆様には大変感謝申し上げます。

今期は様々な事にチャレンジをさせていただいた一年であったように感じます。

昨年に続き、地域の方へ当社をよりご理解頂きたいという思いから施設見学会の実施、また養蜂活動による採蜜体験、初めての取組として社員のご家族の皆様にも日頃の仕事を御理解いただくこと「ファミリーデー」を開催させていただきました。

グローバルな視点に立ち、Eco Expo Asia 2015 への出展、U.A.E.への蜂蜜展開、ラオスでの廃棄物処理案件化調査（JICA採択）等積極的に海外にも挑戦いたしました。

新たな設備投資としてリサイクル率アップのための光学選別機の導入、蜂蜜、防災グッズ、省エネ事業等の販売促進ツールとして「エコロクル」を開発させていただきました。

5年に一度の慰安旅行を通じて社員の皆様とのコミュニケーションアップも図らせていただきました。

この様に積極的に新たな取組をさせていただきました一年ではございますが、やはり基盤であります「とても頑固なごみ屋さん!!」の精神は忘れてはなりません。徹底的にリサイクルにこだわり、法令を遵守し、お客様に安心・安全を提供させていただくという精神を忘れることなく、廃棄物処理を通じてお客様の「不」を取り除き、お客様、地域の皆様に必要とされ、愛される企業を目指して参ります。

最後になりますが、地球環境保全に一層貢献できる様、処理技術・リサイクル率の向上、安心安全な作業環境の充実を目指すとともに、皆様方からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう今後もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

加山興業株式会社
代表取締役 加山順一郎

Think Proper
とても頑固なゴミ屋さん

加山興業株式会社は、次世代のための環境保全を最大の責任と認識し、企業活動のあらゆる面で廃棄物の再資源化ならびに環境にやさしい処理技術の研究開発に努めます。また、地域社会に貢献するとともに、快適な職場環境の形成のため、労働安全衛生に配慮した活動を従業員が協力し健康と安全の確保に努めます。

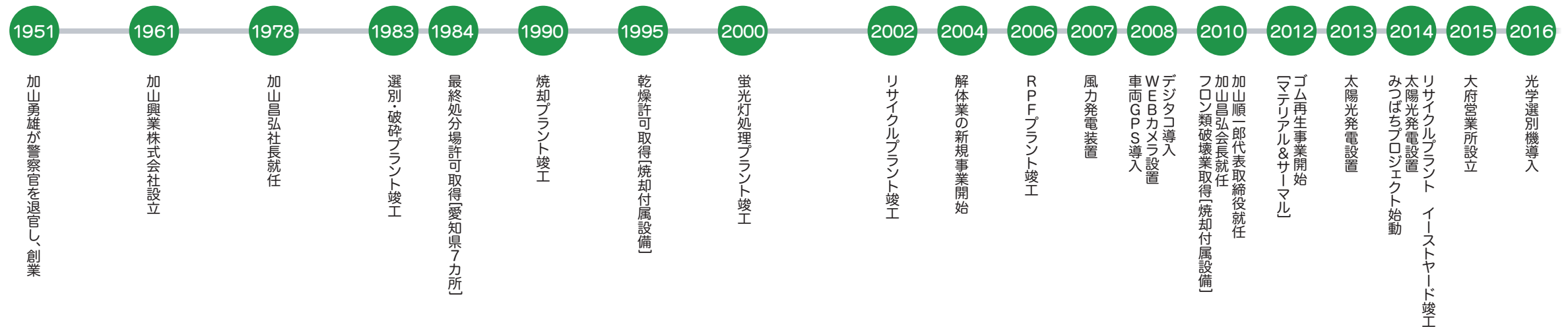
INDEX

目次 / 経営理念 / 基本方針	1	安心・安全のために	11
トップメッセージ	2	環境問題への取り組み	13
加山興業について	3	社会貢献活動	15
特集1 Think Proper リサイクル率の向上を目指して	5	社員とのかかわり	17
特集2 静脈ビジネスの 新たなモデルを追求	7	環境データ	19
特集3 みつばちが運んでくれる 安心の証	9	第三者意見	21

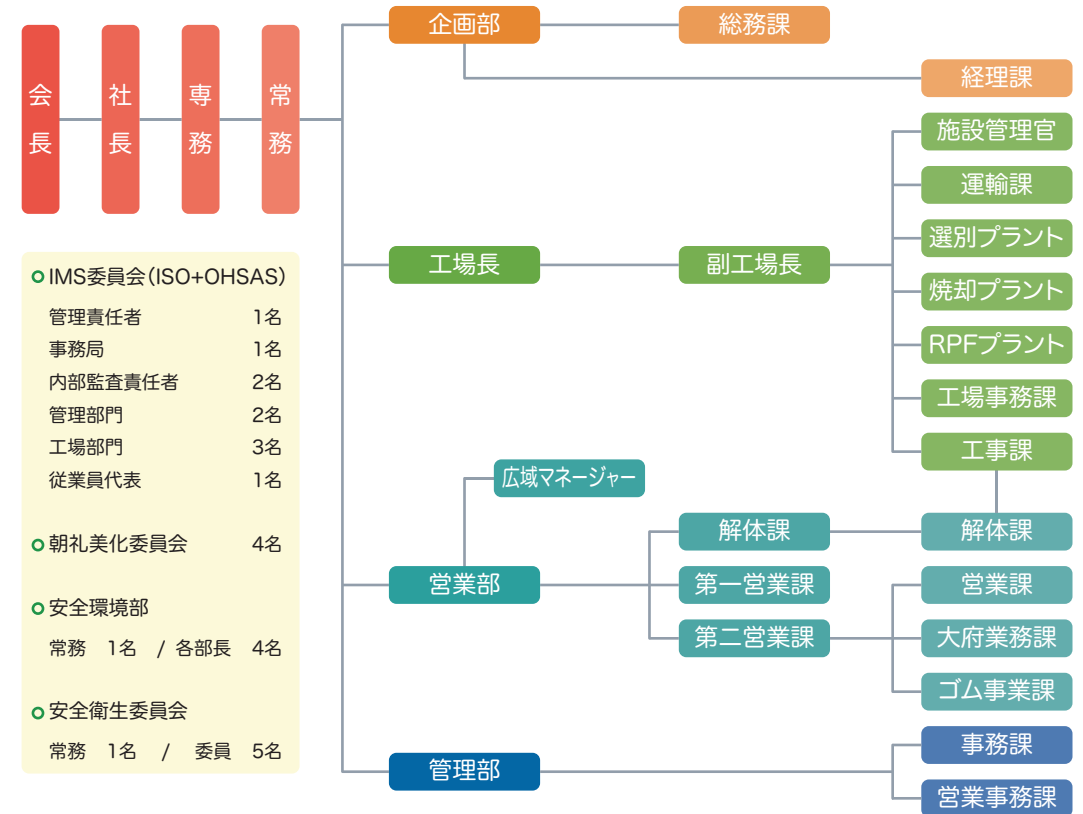
会社概要

社名	加山興業株式会社
代表取締役	加山順一郎
設立	昭和36年11月1日
本社所在地	愛知県名古屋市中熱田区南一番町15番5号
資本金	5,000万円
従業員数	正社員 95名 / パートアルバイト 4名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物収集運搬業 ・産業廃棄物処分業 ・特別管理産業廃棄物収集運搬業 ・特別管理産業廃棄物処分業 ・一般廃棄物収集運搬業・処分業 ・解体業 ・環境機器及び用品販売事業(LED・防災用品) ・養蜂事業(ハチミツ販売)
事業所	豊川営業所 愛知県豊川市南千両二丁目1番地 豊橋営業所 愛知県豊橋市南牛川一丁目15番地の10 大府営業所 愛知県大府市北崎町遠山244番地 岐阜営業所 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通7丁目9番地1号室

あゆみ



組織図



リサイクル率の向上を目指して

適正処理の要 分別ノウハウを活かした人の手による選別作業

リサイクルプラント(選別・破碎)では自動選別のみだけではなく、人の手による仕分け作業を行っています。埋め立て用にしてしまった方がコストはかかりませんが、分別ノウハウを持った人の手によって適正な選別をおこなうことで、可能な限りリサイクルに努めています。

今年度は光学選別機を新たに導入し、機械による選別での精度の向上も図っています。



手選別室

お客様のニーズに応え、CO₂削減にも貢献 焼却施設を利用したフロン類破壊処理の導入

2010年4月にフロン類破壊の許可を取得しました。

フロンの抜き取り・運搬に関しては以前から許可を受けていましたが、自動車産業が盛んな中部・東海地方のお客様からフロン破壊のニーズが高く、数年前から実証試験を行い、安定して破壊基準をクリアできるデータを得られたことから許可申請を行い、取得することができました。

既設の焼却施設に炉内へのフロン破壊用のバーナーを新たに増設し、破壊も加えトータルにサービスを行える体制を整えました。フロンのみを専属で破壊するよりも既存施設の稼働中にフロンを破壊することもCO₂の削減、地球全体としてのエネルギーの削減に寄与しています。



焼却施設

ゼロエミッション社会に向けて

RPF製造

RPFは化石燃料に代わる循環型環境保全エネルギーのことで、古紙や廃プラスチックなどを適切に分類・破碎し、石炭と同等のカロリーになるように調整し、成形加工して精製します。

有害な化学物質などが含まれていないことを測定器で確かめ、お客様に安定供給しています。

ゴム再生

タイヤ以外のゴム系廃棄物のリサイクルを行っています。ゴム製品端材などを細かく破碎して、人工芝などに再利用可能なゴムチップとして加工しています。

原料の成分分析や事前の破碎テスト、金属探知器で異物の除去を徹底して行っています。また、粒度選別を行い、納入先の製品規格に合わせた性状に揃えた上で出荷しています。

蛍光管再生

蛍光管破碎機を導入し、蛍光管の破碎・無害化及びガラス部分のリサイクルを行っています。蛍光管を破碎してガラスと金属に分け、蛍光塗料に入っているわずかな水銀を除去し、ガラスウール原料や金属として再利用します。(リサイクル率99.9%)



蛍光管破碎機



蛍光管再生プラント

荷受施設を増設

2014年に荷受施設を増設しました。受け入れの効率性を高めることで、荷受まで運搬車両が待機することがないように努めています。また、新たな建屋によって騒音の抑制にもつながり、近隣への環境負荷を低減。屋根には太陽光パネルも設置して、環境エネルギーの創出にも貢献しています。

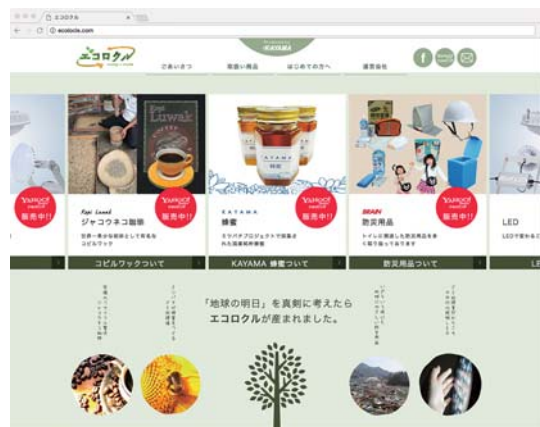


エコロクルの運営

「地球の明日」を真剣に考えたら、エコロクルが産まれました。

エコロクルとは、エコロジーとリサイクルからの造語です。

創立以来55年、廃棄物の適正処理・リサイクルを推進して参りました。環境負荷を最小限に抑える為、更なるリサイクル技術の導入による資源化や、有害廃棄物を無害化し、次世代に安全、安心な環境を残す取り組みを推進しています。今後は、静脈産業の担い手としてだけでなく、皆様の健康や安心安全に貢献できるような商品を提供していきたいとの想いから、ネット販売を始めました。



エコロクル
http://www.ecocycle.com



ワンストップ解体サービス

木造家屋、鉄筋・鉄骨建物など様々な建物の解体工事を行います。解体工事で出た廃棄物は弊社リサイクル向上へ持ち込み、可能な限り資源としてリサイクルし、環境負荷低減に取り組んでいます。解体から処理まで一貫して行うシステムなので、敏速にお客様の「不」を取り除くことができるサービスです。

※東海4県以外のお客様につきましては、信頼できる協力を会社をご紹介させていただきます。

片付けサービス

東海地方を中心に、引越しの部屋片付け、店舗やオフィスの片付けの他、故人様の大切な遺品整理を、遺品整理士の資格を持った自社社員がお手伝いさせていただきます。

※弊社の一般廃棄物収集運搬許可以外の地域につきましては、弊社の協力会社との連携で行わせていただきます。

省エネコンサルティング LED照明のご提案(水銀灯タイプ・蛍光灯タイプ)

エネルギー原単位の多いお客様に、特定のメーカーに属さない公平な目線で無駄なエネルギーを洗い出し、最適な省エネの手法をご提案いたします。

※交換にて廃棄される水銀灯及び蛍光灯は弊社工場にて99.9%リサイクルされます。

省エネ

一般蛍光灯と比較して消費電力、電気代が大幅に削減できます。また、長寿命のため、長時間使用する部屋や取り替えにくい場所に最適です。

CO₂・廃棄物削減

一般蛍光灯と比較してCO₂排出量を約半分に削減できます。環境に有害な物質(水銀・鉛・カドミウム)をほとんど含みません。また、長寿命のため、廃棄物を削減できます。

既存の器具に対応

グロースタート式、ラピッドスタート式、ラピッド2灯式器具でも使用できます。そのまま取り替えてすぐに使えます。(一部の器具で使用できない場合があります。)

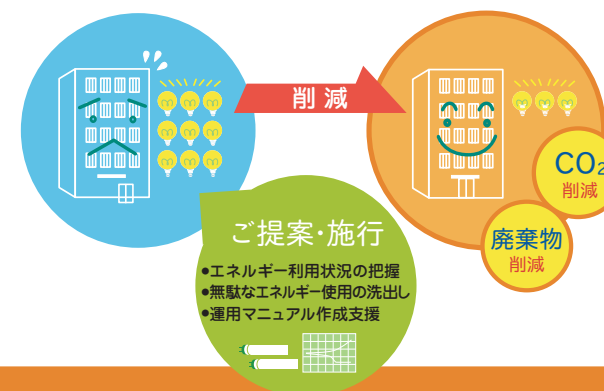
安心・安全

万が一、落としてもガラスと違い、破片が飛び散ることがありません。

低紫外線・低赤外線

LEDの光は紫外線をほとんど出さないのて虫を寄せ付けにくく、長時間清潔な状態が保てます。

エネルギー原単位の多いお客様





みつばちによる環境パトロール

“ヒト”は地球という生態系の中で暮らしています。加山興業は地球の一住人として限られた資源をできる限り再利用できるように努めています。

細心の注意を払い、安全に処理を行っていますが、リサイクルや廃棄の過程で発生する有害物質への不安の声があるのも事実です。

そこで、わたしたちはみつばちをスペシャルパートナーに迎えました。

みつばちは巣箱から半径約3kmの花や樹木などからミツを運びます。こうして集められたミツを分析し、わたしたちのリサイクル事業が近隣の環境へ影響を及ぼしていないかの調査を行っています。

このような活動は環境先進国のドイツ、デュッセルドルフ空港でも行われており、採集したハチミツから重金属など有害物質が含まれていないことが証明されています。当社で採集されたハチミツからも有害物質は検出されず、当社のリサイクル事業が環境へ影響を及ぼしていないことが実証されています。

言わば、みつばちたちが環境パトロールをしているのです。

彼らが元気に飛び回る姿は安心の証。

みつばちたちは今日もパトロールに出ています。

安心のサイクル



環境緑化 生態系保全

養蜂施設に自家農場「KAYAMAファーム」を併設し、環境緑化と共に生態系保全への取り組みにもチャレンジしています。



食育 環境教育

みつばちの生態系を紙芝居やハチミツの採集体験を通して伝えています。



カーボンオフセット

みつばちプロジェクトの活動及び蜂蜜生産に伴うCO₂排出量を算定し、カーボンオフセットしています。



受粉活動による恩恵

みつばちの受粉活動により、近隣の農家さんからは野菜の採れ高が上がったなどの評価をいただいています。

地域交流

ハチミツの採集会を地域の方たちをお招きして実施しています。社員と地域の方たちとの交流を深める場となっています。



すべてのステークホルダーに安心をお届けします

| GPS管理・ドライブレコーダー搭載

全ての収集運搬車にGPSを搭載し、収集物の流れをトレースし、徹底管理をしており、不法投棄のないことをお客様が確認できるシステムを構築しています。また、本年度は新たに全ての収集運搬車・営業車にドライブレコーダーを搭載しました。



| アルコールチェッカーの導入

出社時に運転に携わる社員全員が高性能アルコール検知器によりチェックを行っています。万全の体制で飲酒運転の撲滅に取り組んでいます。

| 社内安全パトロール

安全衛生活動の一環として「労働衛生」「事故防止」をテーマに毎月10日に社員全員が持ち回りで社内パトロールを実施し、意識の共有化と共に向上を図っています。

また、消火栓や消火器などの位置把握のためのマップを作成しました。安全衛生委員会による「見える化」を進めています。



| WEBカメラ

場内9台のカメラで各現場の安全と適正処理を確認頂けます。夜間も温度センサーとセキュリティー会社の監視体制で委託を受けた廃棄物をしっかりと管理させていただいております。

| 悪臭防止・粉塵防止

携帯式臭気測定器を使用し、敷地境界・近隣民家周辺を毎日測定しています。また、防護・粉塵対策ネットやグリーンベルトにより対策を進めています。

もしもの時にも備えています

| 消火訓練

火災発生時に迅速かつ適切に初期消火ができるように消火器・消火栓の取り扱いの訓練を実施しました。



| 安全講習の実施

初任教育において、事故防止全般に対するの心構やプロドライバーとしての「思いやり運転」を懇切に説明して意識付けを図ると共に、具体的事例集などにより廃棄物運搬の固有の事故から一般的多発事故までその原因、防止策に関して徹底教育します。

| AED講習

社内での万一の場合はもちろん、他者の事故と遭遇した際にも社員一人一人が対処できるよう、AED講習会を実施しました。



| 自身の応急救護と人命救助

弊社の運搬及び営業車両へは応急救護セットを積載しています。自身の事故もですが他者の事故などに対しても人命救助を最優先に考えて行動できるように心掛けています。

産業廃棄物回収業務という職務上、回収現場では蜂による被害もあります。ポイズンリムーバーなどによる初期処置にも対応したいと考えております。

自然エネルギーの有効活用とサーマルリサイクル

| 小型風力発電システム

2007年に風力発電システムを導入しました。RPFプラント屋上に小型ながらも3基の風車が稼働しています。発電された電力は夜間照明に使用し、CO₂の削減に貢献しています。

	発電量 (kW)	CO ₂ 削減量 (kg)
2013年度	2,893	1,391
2014年度	3,255	1,563
2015年度	3,105	1,490
2016年度	3,213	1,436



| 太陽光発電システム

風力発電と共に環境にやさしい自然エネルギーとして、リサイクルプラント屋上とストックヤード屋上に太陽光パネル(約100kW)を設置、稼働しています。



	発電量 (kW)	CO ₂ 削減量 (kg)
2013年度	27,369	1,228
2014年度	111,616	5,011
2015年度	97,681	4,384
2016年度	110,856	4,955

| サーマルリサイクル (=熱回収)

サーマルリサイクルとは焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用することです。焼却プラントでは焼却時に発生する温水を汚泥等の乾燥に利用しています。

低炭素社会を目指して

| カーボンフリー

カーボンフリーとは、日常生活や経済活動によって排出される二酸化炭素(CO₂)を、何らかのカチで相殺することです。

2010年1月からカーボンフリーコンサルティング社と契約を締結し、植樹貢献事業と人道支援を絡めたWFP FOOD FOR CARBONFREE PILOT PROJECTに参画しています。WFPが進めているこのプロジェクトは温暖化ガス削減のための食料支援を目的として現在インドネシア東部地域で活動しています。貧困による食料不足の状態であるこの地で、カシューナッツやジャトロファといった環境性・換金性の高い植物の植林事業を支援することで温暖化防止への貢献と共に、貧困地域が永続的に経済的に自立することを目指しています。



| 排出量取引の国内統合市場の試行的実施に参加

運輸省が取り組む「排出量取引の国内統合市場の試行的実施」に運輸部門で参加。日々の業務からCO₂排出削減に努めています。



| エコな取り組み

限りある資源の利用を目指して、些細なことですが封筒の再利用の取り組みをしています。いつも封筒を取り扱う事務スタッフのアイデアから誕生しました。今後も少しずつ取り組みを広げていきます。

全世界の共同社会に貢献します

| 国境なき医師団への寄付

2010年10月より「国境なき医師団」の活動に賛同し、フィールドパートナーとして微力ながら応援させて頂いています。世界では紛争で家や家族を失い、傷ついた人々があるべき医療を受けられない状況にあります。

世界平和を願い、環境を考え、行動する事業活動を行っていきたく考えています。

| ペットキャップ回収拠点と活動

豊川工場はペットキャップの回収拠点となっています。回収拠点としてだけでなく、自社でも回収活動に取り組んでおり、集められたペットキャップはワクチンの購入費となるように寄付させて頂いています。



| インストラクターの派遣

電子マニフェストのインストラクターとして活動を行いました。



| 展示会・イベントへの参加

展示会・イベントに積極的に参加しています。より多くの方たちにわたしたちの取り組みや活動を知っていただく場となっています。

| 不法投棄撤去作業・清掃活動

愛知県産業廃棄物協会による不法投棄廃棄物の撤去活動に参加しました。愛知県全域で不法投棄防止のパトロールを実施した際に発見された廃棄物を中心に撤去、回収を行いました。

また、ボランティア清掃活動にも積極的に参加しています。

身近な地域社会にも貢献します

| 環境教育・職業体験

毎年、継続的に地域の小学校へ環境教育の出前授業にお伺いさせていただいています。本年度は6校の小学4年生を対象に「家庭からの資源・ゴミについて」や「パッカー車について」の授業を行いました。

また、地域の中学校・高校の職業体験の受け入れを行いました。



環境教育



職業体験

| 工場見学の受け入れ

毎年、継続的に地域の皆様、関係者の皆様に施設・工場の見学会の受け入れを実施しています。適正処分、安全への取り組みをご理解いただいています。



| 地域清掃活動

2011年から毎日地域のゴミ拾いを行い、環境汚染と景観悪化の防止に努めてきました。この活動を通じ、地域の方との交流を深め、地域に根ざした環境保全活動を行っています。

ごみ拾いアプリ「ピリカ」への協賛

当社は株式会社ピリカにより開発されたフリーアプリ「ピリカ」に協賛しています。

「ピリカ」とは世界53ヶ国、50,000ヵ所以上で利用されている世界最大規模のゴミ拾いアプリです。このアプリを通じて投稿したゴミ拾い時の写真はリアルタイムでネット上の地図やタイムラインに反映され情報を共有することができます。また、他のユーザーの行動に対して感謝の気持ちを届けることもできます。

当社では特定地域のごみ拾い活動を可視化できる「ピリカウィジェット」をホームページ内に設置しており、豊川市内のごみ拾い活動がリアルタイムでご覧いただけるようになりました。

すべての人財に活躍と成長、安全で快適な職場環境を

社員研修の実施

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)は度々改正され、複雑なものとなってきています。その他、リサイクルや地球温暖化対策などの法律が次々施行されています。

当社では、廃棄物のプロとして、営業部や収集ドライバーがお客様へ情報を提供できるよう、社内勉強会を実施しています。講師になるのは各部署の先輩社員ですが、教えることによって講師自身の成長にもつながっています。その他、外部講習会などにも積極的に参加し、スキルアップを図っています。



作業環境の改善

作業現場では破砕機付近へ安全境界線を設置し、作業者以外の立ち入りを規制することで安全性を高めました。

また、事務所には手動スーパースティックを導入し、散りや埃が起らずに掃除ができるようになりました。清掃業務で起きる散り・埃による健康への不安解消に努めました。



メンタルヘルスケア

従業員の心の不調を未然に防ぎ、活力ある職場作りを目指して、メンタルヘルスケアの取り組みを始めました。



ダイバーシティへの取り組み

ベトナムからの研修生3名を受け入れました。期間は3年間と限られていますが、知識や技術を自国で広めてもらうことで社会にも寄与できるものと考えています。

また、多様な人材を受け入れることでより活気ある職場作りを推進していきたいと思っております。

労働・安全衛生プログラムの構築

環境・労働安全衛生方針

1. 私たちの廃棄物処理及びリサイクル業務において、ISO14001の企画に基づく環境マネジメントシステム及びOHSAS18001の企画に基づく労働安全衛生マネジメントシステムを従業員全員が構築運用し、継続的に改善すると共に労働安全衛生におけるパフォーマンスシステムを継続的に改善します。
2. 事業活動・製品及びサービスに伴う環境汚染・労働災害と健康障害の予防に努め、当社の環境側面と労働安全衛生の危険源に関係して適用すべき法律・条例及び、当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
3. 事業活動・製品及びサービスに伴う環境影響・労働安全衛生リスクの中から、次の事項を重点課題として環境目的・目標及び労働安全衛生目標を定め、定期的に見直しします。

① 廃棄物の入荷量を増加させる。	② 現場力強化に努める。
③ 労働安全リスク低減に努める。	④ 従業員の健康増進に努める。
4. 環境ボランティア活動に積極的に参加します。
5. 危険予知活動の推進により、従業員の安全意識のレベルアップを図ると共に、資格者の充実を図ります。
6. この方針は文書化して公表し、一般の方が入手可能とします。また、全従業員及び当社のために働くすべての人に周知し、環境への意識・労働安全衛生活動の向上を図ります。

BCPの策定

大規模震災のBCP(事業計画)からスパイラルアップし、集団感染(インフルエンザ)への計画を追記しました。従業員全員が予防接種を行うことを取り決めました。

BCP基本方針

当社は、大規模震災の災害が発生した場合、インフルエンザ(震災による震災による感染等)、あるいは、その他の危機が発生した際、顧客及び従業員の生活に影響を及ぼさないよう、以下の方針に基づき策定したBCPにのっとり、地域・社会貢献のための事業の継続、早期復旧・感染防止に取り組むため、体制などの基本事項を定め健全な事業運営を継続します。

1. お客様・お取引先について
災害が発生してもお客様・従業員の安全(避難)・健康を最優先し、悪影響は最小限に抑える。
2. 従業員について
従業員とその家族の安全と生活と生命を守る。日常より個人や家庭においても感染防止策をとる。
3. 地域社会について
地域の人々と協力し、復興・感染防止に貢献する。帰宅困難者の支援。
4. 集団感染について
日常より震災の知識・パンデミックに対する知識の向上をはかる。従業員への予防接種。

処理施設のデータを公開しています

焼却炉排ガス測定結果 [採取場所:焼却炉集合煙突]

試料採取日		H27.9.15	H27.9.15	H28.3.29
結果が得られた日		H27.10.1	H27.10.7	H28.4.6
測定項目	ばいじん (g/m ³ N)	—	<0.002	<0.002
	硫黄酸化物 (m ³ N/h)	—	<0.009	<0.01
	窒素酸化物 (ppm)	—	130	140
	塩化水素 (mg/m ³ N)	—	26	27
	Co (%)	—	0	0
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	0.63	—	—

運転中連続測定結果 燃焼(全て980°C以上) / 排ガス(全て130°C以下) / 排ガスCO(全て100ppm以下)

燃え殻の溶出試験結果

[採取場所:GB4000]

試料採取日		H27.11.2	H27.6.30	H27.3.24	H27.6.30	H28.2.25
結果が得られた日		H27.11.18	H27.7.27	H27.3.30	H27.7.29	H28.3.7
測定項目	アルキル水銀 (mg/ℓ)	ND(<0.0005)	—	—	—	—
	水銀 (mg/ℓ)	<0.0005	—	—	—	—
	カドミウム (mg/ℓ)	<0.005	—	—	—	—
	鉛 (mg/ℓ)	<0.01	—	—	—	—
	六価クロム (mg/ℓ)	<0.04	—	—	—	—
	ヒ素 (mg/ℓ)	<0.01	—	—	—	—
	PCB (mg/ℓ)	<0.0005	—	—	—	—
	1,1-ジクロロエチレン (mg/ℓ)	<0.001	—	—	—	—
	セレン (mg/ℓ)	<0.01	—	—	—	—
	1,4-ジオキサン (mg/ℓ)	<0.001	—	—	—	—
	熱灼減量 (%)	—	2.9	5.9	—	—
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/g-dry)	—	—	—	2.1	0.9

[採取場所:GB12000]

試料採取日		H27.11.2	H27.6.30	H27.3.24	H27.6.30	H28.2.25
結果が得られた日		H27.11.18	H27.7.27	H27.3.30	H27.7.29	H28.3.7
測定項目	アルキル水銀 (mg/ℓ)	ND(<0.0005)	—	—	—	—
	水銀 (mg/ℓ)	<0.0005	—	—	—	—
	カドミウム (mg/ℓ)	<0.005	—	—	—	—
	鉛 (mg/ℓ)	<0.01	—	—	—	—
	六価クロム (mg/ℓ)	<0.04	—	—	—	—
	ヒ素 (mg/ℓ)	<0.01	—	—	—	—
	PCB (mg/ℓ)	<0.0005	—	—	—	—
	1,1-ジクロロエチレン (mg/ℓ)	<0.001	—	—	—	—
	セレン (mg/ℓ)	<0.01	—	—	—	—
	1,4-ジオキサン (mg/ℓ)	<0.001	—	—	—	—
	熱灼減量 (%)	—	3.2	3.3	—	—
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/g-dry)	—	—	—	2.0	2.1

可能な限りリサイクルに努めています

廃棄物量

55期 搬入量 38,964t

紙くず	320t	廃アルカリ	17t
木くず	5,017t	動植物性残さ	453t
繊維くず	929t	汚泥	1,719t
廃プラスチック	15,501t	蛍光管	293t
金属くず	711t	建設系混合廃棄物	3,882t
ガラス・陶磁器くず	2,254t	その他混合廃棄物	3,431t
がれき類	1,230t	引火性廃油	281t
廃油	782t	感染性廃棄物	793t
廃酸	14t	一般廃棄物	1,337t

中間処理

焼却
乾燥
選別
破砕
押出成形
減容固化
蛍光灯の破砕

リサイクル

廃プラスチック類	690t
ガラス・陶磁器くず	326t
紙くず	3t
金属くず	1,362t
木くず	4,803t
がれき類	1,961t
汚泥	1,708t
廃ゴムくず	202t
廃油	481t
ばいじん	82t
燃え殻	106t
RPF	10,661t

埋め立て

管理型埋立(燃え殻・石綿)	3,010t
安定型埋立	4,096t

継続的に環境保全に取り組みます

環境目標と結果 [2015.9~2016.8]

<p>廃棄物搬入量</p> <p>実績 38,964t</p> <p>目標 54,000t</p>	<p>RPF生産量</p> <p>実績 10,661t</p> <p>目標 14,400t</p>	<p>焼却炉投入量</p> <p>実績 4,468t</p> <p>目標 4,500t</p>
<p>ゴムチップ生産量</p> <p>実績 555t</p> <p>目標 1,050t</p>	<p>リサイクル率</p> <p>81.70%</p>	

外部審査結果

2005年3月にISO14001を、2010年3月にOHSAS18001を認証取得し、今回の審査は2年次サーベイランス審査として実施しました。今回の審査も修正及び是正処置を要求する不適合はなく、引き続き認証維持の判断をいただきました。審査機関は株式会社日本環境認証機構(JACO)に依頼しています。



<p>不適合A/B</p> <p>なし</p>	<p>パフォーマンス評価</p> <p>ISO 4件</p> <p>OHSAS 5件</p>	<p>改善の余地</p> <p>ISO 5件</p> <p>OHSAS 7件</p>
--------------------------------	--	--

さらなる飛躍のための人材育成を



横浜市立大学
CSRセンター長
影山 摩子弥 氏

産業廃棄物処理業は、地域のサステナビリティにかかわる静脈産業である。加山興業は、この意味をよく理解しており、本業の中での取り組みが光る。すなわち、現代においては、地域ひいては人類のサステナビリティのために、環境保全の取り組みを地域や社会全体で行っていくことが求められている。

この点、加山興業では、リサイクル率を上げる手作業の選別や既存焼却施設を利用したフロン破壊、古紙や廃プラスチックの燃料への加工、蛍光管やタイヤ以外のゴム系廃棄物の再生など、地域の環境保全システムの担い手であることを自覚した取り組みをしている。特に目を引くのは、自社の環境への負荷を測ることを目的として取組まれているミツバチ事業である。地域住民を集めたハチミツの採集会も開催しており、地域に根付いた産廃業として、地域への配慮の姿勢が感じられる。

また、取り組みの成果については、数値データで公開しており、アカウントビリティへの配慮も欠かしていない。

さらにビジネス領域の拡大も図り、エコクルの運営、建物の解体からリサイクルまでを一貫して行うサービス、省エネコンサルティングなど、本業をベースに顧客ニーズをつかもうとしている点はよい方針と思われる。特に、本来業務から外れるものの必要とされる事業に関するコンサルティングは、ニーズが高い可能性があり、自社の取り組み経験を生かして事業化しようとするケースもよく見られるようになっている。

加えて、廃棄物の運送を行うことから、ドライブレコーダーの搭載やアルコールチェックを行うとともに、事業の担い手である社員向けの消火訓練や安全講習、人命救助講習、作業環境の改善などを行い、業務品質を向上させる取り組みをしている。

いずれの取り組みも、押さえるべきところを押さえているという印象がある。そこで、さらに加山興業のCSRの充実を図るために、自社の実践構造分析を行い、社員の育成強化につなげるとよいと思われる。すなわち、社員は、CSRの現場実践担当者である。優秀な現場実践者は、「仕事ができる社員」と表現できる。そのような社員は、研修やOJTだけで育つのではない。それぞれの企業に固有な社内の非公式組織に類する構造(実践構造)によって育成される。その構造を把握し、「できる社員」を育成することが、加山興業がさらに飛躍するために必要と言えよう。